



新たな時代の保育実践

西南女学院大学 上村眞生

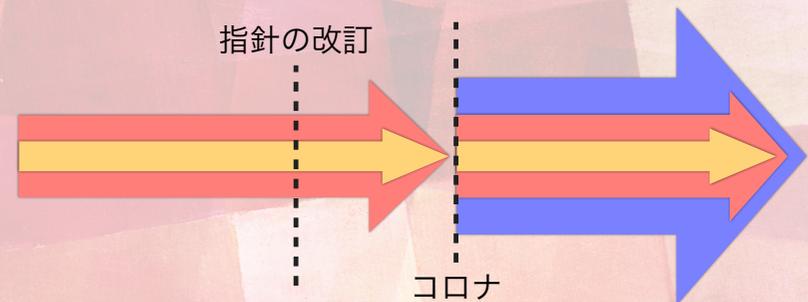
自己紹介

- ◇ 上村 眞生 (うえむら まさお)
- ◇ 福岡県出身
- ◇ 宮崎大学農学部 (中退) - 福岡県立大学人間社会学部 (編入) - 広島大学大学院教育学研究科
- ◇ 保育士 - 西南女学院大学保健福祉学部福祉学科
- ◇ 専門: 幼児教育学・保育学
- ◇ 研究テーマ: 保育士のメンタルヘルス・保育の質・保育内容

近年の「保育」に関するトピック

- ◇ 保育の質
- ◇ 災害対応
- ◇ 処遇改善、キャリアアップ
- ◇ 保育所保育指針改訂
- ◇ 非認知的能力
- ◇ ICT
- ◇ 新型コロナウイルス
- ◇ 危機管理
- ◇ オンライン
- ◇ 虐待
- ◇ 貧困

時代の転換点



新たな時代の保育実践を考えた際に

- ・我が国の保育において積み上げてきたもの
- ・時代の要請に沿って応えなければならないもの
- ・自ら切り開いていくべきもの

我が国の保育において積み上げてきたもの

- ◇ 保育所保育指針
- ◇ 環境を通して展開する
- ◇ 子どもの主体性を引き出す
- ◇ 乳児保育
- ◇ 5領域と3つの資質・能力

環境を通して展開する

- ◇ 保育士主導ではない
- ◇ 保育士の役割は子どもが環境と関わりたいと思う仕掛けと、「ねらい」を達成できるであろう環境を構成すること
- ◇ 保育士目線：教育的な活動
- ◇ 子ども・他者目線：遊びや生活の一部

子どもの主体性を引き出す

- ◇ 子どもが主体的であるとは
- ◇ 遊びのもつ意味

遊びのもつ意味

- ・遊び：それ自体が目的であり自由かつ自発的で楽しさを味わう活動
- ・大人にとっての遊びとは意味が違う：貴重な学びの機会
- ・自発的で楽しさを味わう⇔保育者がねらいを持って提供する学習機会
- ・普段の「遊び」は本当に「遊び」となっているか
- ・環境の中に学習機会を埋め込み、子どもが主体的にその環境に関わることを促す

5領域とは



子どもの発達を捉える視点

領域の理解

- ・子どもには、領域に見られるような発達の姿があるので、いかにそれを伸ばすかということを考えなければならない
- ・子どもの発達を捉える視点であって、子どもに教える（伝える）内容ではない
- ・「・・・」を教える、ではなく、「・・・」なるために必要なことは何かを考える →環境構成
- ・保育の中で「個別の領域」のねらいを立てても発達は「総合的」であることに留意

領域と3つの資質・能力の関係

- ・教育目的としての「ねらい」とそれに沿った評価
- ・保育の結果育つ「3つの資質・能力」を把握
- ・「3つの資質・能力」を目的としない

時代の要請に沿って応えなければならないもの

- ◁ 保育実践を言語化する
- ◁ 専門性とは
- ◁ 多職種連携
- ◁ 非認知的能力
- ◁ IT、IcT、IoT、DX
- ◁ アフターコロナを見据えて

保育実践を言語化する

- ◁ 専門職とは
- ◁ チームでの保育（発達の連続性と保育の一貫性）
- ◁ 多職種連携

多職種連携（小学校を例に）

- ◁ 小学校学習指導要領の改訂と保育所保育指針
- ◁ 教育観の違い
- ◁ 教育、保育の目的による違い
- ◁ 教育内容の違い（経験カリキュラムと教科カリキュラム）
- ◁ 教育方法の違い
- ◁ その他（個人内評価と評価基準）
- ◁ 3つの資質・能力による連続性の担保

非認知的能力

- ◁ テストの得点・IQ：認知的能力
- ◁ 努力する力・協調する力・感情のコントロール：非認知的能力
- ◁ 幼児期に伸びる力：非認知的能力
- ◁ 非認知能力を土台として伸びる認知的能力

子どもの育ちに対する見通し

- 「今」ではなく、連続する育ちを見通した上での「今」
- 個々の子どもの発達に配慮するとは

IT、IoT、DX

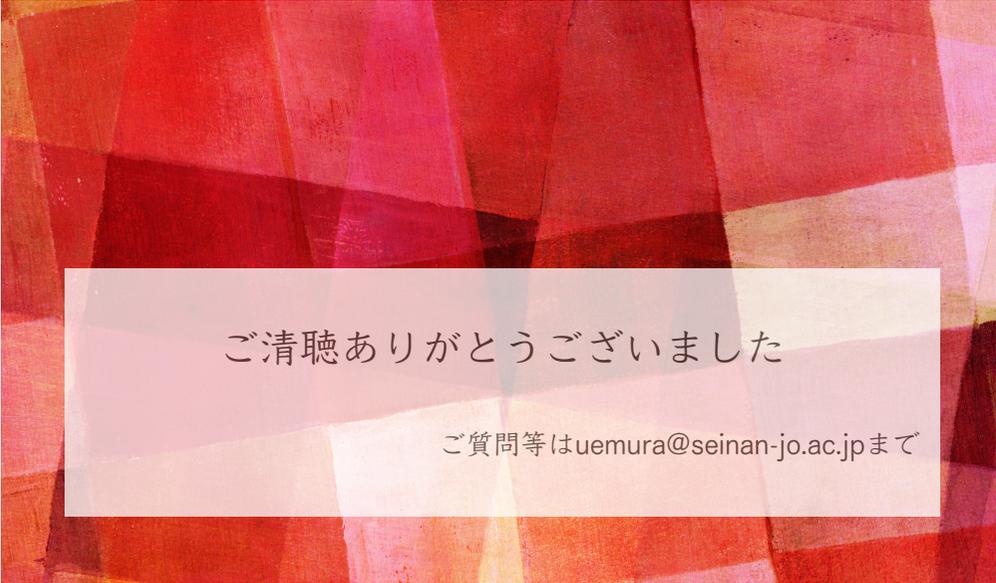
- 確実にやってくるデジタル社会の中で
- 「我々」の当たり前と「その時」の子どもたちの当たり前
- リテラシーを

アフターコロナを見据えて

◦

自ら切り開いていくべきもの

- これからのグローバルな社会の中で
- SDGs
- 環境問題・エネルギー問題・食糧問題
- 「保育」という営みの普遍性
- 次世代を担う子どもを育てる



ご清聴ありがとうございました

ご質問等はuemura@seinan-jo.ac.jpまで